

あなやま

社会福祉法人 信和会

〒407-0263

山梨県韮崎市穴山町 5164

TEL 0551-25-6100

FAX 0551-25-6103

<http://www.sip-shinwakai.jp>

編集責任者 栗原 信



～ 秋 桜 ～ 秋風にゆられ



『ノーマライゼーション理念の実現を願う』

社会福祉法人信和会 評議員
山梨県立韮崎高等学校 校長

飯田 春彦

昨年、穴山の里文化祭に出席させていただいた折、懐かしい教え子に再会することができました。韮崎高校に校長として赴任していなかったら、この奇跡的な出会いは起こらなかっただろうと考えると、まさに教師冥利に尽きる再会でありました。

私は高校教師になって6年目の昭和63年に、わかば養護学校（現わかば支援学校）へ赴任しました。保健体育で採用された身であるので、障害児教育に携わるのは初めての経験でした。元々、障害者に対しての知識や理解が浅かったので、身体に障害があり車椅子に乗った方、目が見えない方、耳が聞こえない方イコール障害者というマスメディアで見聞きした程度の概念しかもっていませんでした。こうしたことから、養護学校へ異動が決まり、知的障害のある子ども達を教えることには大きな不安しかありませんでした。

その不安を抱えたまま、わかば養護学校でのスタートが切られました。初めて担当した学年は中学部2年であり、私は3人の子どもを受け持つこととなりました。教科担任制の高校と違い、子ども達とは常に一緒に活動するので、空き時間はありませんでした。教科指導だけではなく、着替え、トイレ、給食、歯磨きなど基本的な生活習慣を確立させるための指導等も行いました。驚きと戸惑いの連続でありましたが、元気あふれる子ども達のおかげもあって、すぐに学校にも慣れ、楽しい毎日を過ごすことができました。昨年会った教え子はこの学年に在籍していて、指導員さんからは最近ではビールを飲むのを楽しみにしていると聞き、その当時の彼もムードメーカー的存在だったことを思いだし微笑んでしまいました。

屈託のない笑顔、人なつくく甘えてくる態度、喜びや楽しさを身体全体で表現する歌やダンスなどすべての学校教育活動において、子どもが本能のまま、ありのままの姿を見せてくれました。障害をもった子ども達が純粋無垢に生きる姿は、私の心にしっかりと焼き付いており、その後の教員生活の大きなエネルギーとなっております。

わかば養護学校には4年間勤務しましたので、社会的な理不尽にも気づきました。それは校外学習や修学旅行などで体験した子ども達に対する周囲からの差別や偏見の目です。子どもに直接的にはありませんが、差別的な発言を耳にしたこともあり、強い憤りをもったことを思い出します。

障害者に対する差別や偏見は内閣府の世論調査でも明らかになっており、平成29年調査によると、「障害のある人に対して差別や偏見があると思うか」に対する回答は、「あると思う」が50.8%、「ある程度はあると思う」が33.1%、合計83.9%にも及んでいます。このような結果を踏まえると、平成元年くらいに私が感じていた差別や偏見はいまだに存在することになり、共生社会を実現していくための課題は山積していると言わざるを得ません。

さて、障害者に対する差別を見直すきっかけとなったのは、1950年代代だそうです。その当時、デンマークでは、知的障害者が施設に収容、隔離されるなどして家族と離ればなれの生活を余儀なくされ、そうした人権侵害に対する改革として、現在のノーマライゼーション「障害のある者も障害のない者も同じように社会の一員として社会活動に参加し、自立して生活することのできる社会を目指すという理念」の元となる言葉と概念が提唱されました。差別や偏見をなくし、共生社会を実現するために、障害者も同じ人間として地域で生き、地域の一員として社会貢献できるということを信和会の取り組みのように実際の姿や活動を見てもらい、理解を深めていくことが一番の近道であると私は信じています。

穴山の里は昭和61年に開設され、35年目を迎えられたと伺っております。開設当時は、地域や社会の障害者に対する理解も少なく運営も難題が多かったことと推察いたします。そうした状況においても、先見の明をもち地域社会との融合を目指し、障害者支援等に人生を捧げてくださった栗原信雄会長の揺るぎない信念とご功績は誠に偉大であると敬服いたします。栗原信理事長におかれましても、会長の信念を継承され、「真の福祉を追求していこう」という法人の運営方針のもと、地域に根ざした社会福祉法人を実現するため、日々ご尽力いただいている姿には心より感謝を申し上げます。結びに、ノーマライゼーション理念の実現を願うとともに、信和会のみならずのご発展とご繁栄をご祈念申し上げ、寄稿文とさせていただきます。

本部だより

社会福祉法人 信和会 法人本部
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
Tel.0551-25-6100
E-mail: honbu@sip-shinwakai.jp



防災体制の構築に向けて

～ 各施設に防災士の配置を進めています ～



近年における日本の災害状況は、今までに経験のしたことのないレベルの災害が、毎年のように発生している異常な状態といえます。山梨においても2014年の雪害や2019年の土砂災害など、いつ被災による避難所生活がおきても不思議ではありません。山梨県では、「甲斐の国・防災リーダー養成講座」を年1回開催しており、この講座を修了・防災士試験合格し、かつ普通救命講習を修了することで防災士資格を取得できます。この受講は、各市町村より推薦を受け、県にて認証されると受講できます。当法人では、3年前より韮崎市や穴山地区との防災における協力体制の推進や法人の各施設で災害が発生しても対応できる人材育成の目的で、毎年2名を韮崎市に申請し防災士の取得に努めてまいりました。今年を受講者が無事防災士の資格取得ができると、法人・穴山の里・わ～く穴山の里・グループホーム・穴山の杜・穴山の杜ショートとの6事業所に1名の防災士が在籍することになります。この防災士が各施設の防災活動の役割を担い、また韮崎市や地域との連携や協働体制を構築していくための活動を進めてまいります。今後も防災士資格の取得を継続し、複数の防災士確保や女性の防災士も各施設1名以上は確保するように考えております。韮崎市とも福祉施設の避難場所登録や今後の防災体制について協議を始めた段階であり、まだ体制作りの途上ではありますが、防災体制の構築に向けて進めてまいります。

***** 防災士とは (日本防災士機構) *****

防災士とは”自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人です。日本防災士機構は、阪神・淡路大震災の教訓の伝承と市民による新しい防災への取り組みを推進し、我が国の防災と危機管理に寄与することを目的に平成15年に創設されました。それぞれの地域の自主防災組織や学校、福祉施設、事業所等で防災士の配置・活用の動きが広がっています。

防災士登録数 全国 197,895 名、山梨 1,423 名 (2020.9 末現在)

日本防災士機構HP抜粋



春の桜島
作：竹村良子様

寄贈品紹介

鳳凰会館の落成を祝って、藤田元様より絵画を2点寄贈して頂きました。鳳凰会館に提示しております。ありがとうございました。



溶けだした記憶
作：中根一政様
造形作家須玉町在住

穴山の里

障害者支援施設 穴山の里
〒407-0263 菟崎市穴山町 5164
Tel.0551-25-5900
E-mail : sato@sip-shinwakai.jp



職場10年の振り返りと農福連携の取り組みについて

小澤 昭秀

私が穴山の里にお世話になって、10年が経ちました。長いようで短く、ここまで勤務できたのは、ひとえに皆様方の激励、ご支援やご協力を頂いたお陰だと感謝申し上げます。この間、私が所属しているのは「農業奉仕班」で、地域の草刈りや清掃等の奉仕活動、施設内の環境整備、畑や水耕ハウスでの野菜作り等を行ってきました。このような作業等を通じ、利用者の皆様の精神安定や体力増進、地域との連携を図ることを目的に、昨今叫ばれている「農福連携」のような活動を、開設当初より実施し、引き継いでまいりました。農福連携とは、障がい者の農業分野での活動を通じ、農業経営の発展と共に、障がい者の自信や生き甲斐を創生し、併せて社会参画を実現していこうという取り組みであります。近年農業分野での障がい者雇用が少しずつではありますが増えつつあるそうです。私共、穴山の里でも、地域の企業でのお手伝いなどを行ってきました。利用者の皆様が出来る作業は限定的ですが、草や枝などを運んでもらったり、道具を持ってきてもらったりの作業ですが、利用者の皆様がいるといないとでは全然違います。私がお礼を言うと、表情が明るくなる方、次から積極的に手伝って頂ける方もいらっしゃいます。体を動かすことで食事もおいしく召し上がられると思います。このような作業を通じ、利用者の皆様が自分の存在を認められ、積極参加の方向になればと願っています。実際に農福連携に取り組んでいる障がい者施設では、利用者の方の表情が明るくなったり、体力がついてきたりと、良い結果も生んでいるようです。私達は、利用者の皆様の精神安定や体力増進と共に、農作物を収穫する喜びも味わい、更に地域貢献も実施して、地域社会の一員としての自覚を持っていただくことを目標に、頑張っています。



畑の管理



小松菜の収穫

職員紹介



中村 隼人です。今まで4年程障がい者入所施設で働き、次に介護の勉強のため7年間病院で働いていました。今までの経験を活かし、利用者の皆様が、安全で楽しい生活が送れるように支援をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



井上 拓です。今まで13年間、老人介護施設で働いてきました。この度4月から穴山の里で働いています。以前の経験を活かしながら、障害福祉の事を勉強し、即戦力になれるように頑張ります。よろしくお願いいたします。

地域交流活動



共 選 場

7月6日から約1ヶ月間、地域の新府共選場で仕事をさせていただきました。化粧箱折り、ウレタン入れ等を行いました。地域の皆さんから声をかけていただくことを励みに頑張りました。

環境整備活動

地域の環境整備として廃軌道、鷲宮神社、旧穴山小学校、石水地区道路の除草作業と整備を行いました。地域の方に快適に使っていただければ嬉しいです。



施設行事

ジャガイモの収穫

8月7日、農業班を中心にジャガイモ掘りを行いました。品種は【きたあかり・メイクイン・男爵】の3種です。今年も豊作で、良いジャガイモが500キロほど穫れました。

ミニ納涼祭



8月12日、地域の夏祭りが中止になったため、施設内で「ミニ納涼祭」を行いました。スイカ割り、花火大会。かき氷を食べ、皆で楽しみました。

穴山の杜

特別養護老人ホーム穴山の杜
〒407-0263 韮崎市穴山町 5390
TEL0551-25-6100
E-mail : mori@sip-shinwakai.jp



「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざ通り、彼岸が過ぎてからたちまち秋の気配が濃厚になってまいりました。長雨に高温と、例年になく気候の異常さが目立つ今期の夏でした。春先から季節の変わり目を楽しむ余裕もなく、新型コロナウイルスに振り回されています。当施設では、職員の自制した行動と家族の皆様のご理解とご協力ですべての新型コロナウイルスの影響もなく、大過なく生活出来ていることに感謝したいと思います。昨年暮れからの長期の面会自粛が続く中、家族の皆様には制限された面会で大変ご不便をおかけしておりますが、まだまだ油断できない状況ですので、今暫くは継続しなければならぬと考えています。

施設の開設14年目を迎えました。職員一同皆様からのご指導ご叱責をいただきながら、より一層充実した施設運営を目指してまいります



令和2年度 委員会活動紹介

「 介護力向上委員会 」

委員長 横森 将輝

こんにちは。私たち介護力向上委員会は、日々の介護業務における知識や技術、考え方などを向上させ、ユニットケアやおむつ外し、科学的介護などのレベルアップを目指す委員会です。実際に入居者の皆様に24時間365日介護する私たち職員は、日々変化する状況の中で、どうしたら皆様により良い生活を送って頂けるのかを各々が試行錯誤しながら頑張っています。そんな現場のリアルな声や課題、介護していく上で不安に感じる事などをピックアップし、みんなで共有してサポートする活動も行っています。

では、私たちの委員会が行ってきた活動の一部をご紹介します。まず、入居者になりきり、実際にパットを付けて数時間を車椅子で過ごしたり、トロミ飲料を試食したりする「利用者体験」、そして機械の特殊浴槽に実際に入ってみる「特浴体験」という2種類の体験型の研修を行いました。これまで当たり前の様に行ってきた業務の中に、利用者としての目線で入り込むことで、新たな発見や、普段入居者はこんな風に感じているのだという気付きがありました。次に、各ユニットで抱えている課題をピックアップし、取り組んだことを発表する「活動成果報告会」を開催しました。これは、普段あまり触れる事のない他ユニットの課題を知る事を目的とした発表会です。この発表を通して、それぞれの課題に対する各ユニットの様々な活動や成功例、失敗例を知る事ができ、お互いに良い刺激を受ける機会となりました。今後は毎年開催することが決まっており、施設全体での大きな取り組みとなっています。

以上の活動を行いながら「穴山の杜」の介護力の向上を目指してきました。今年度からはユニットケアの実地研修施設の認定を委員会の大きな目標とし、その第一歩としてユニットケアについての基本研修を計画しています。ユニットケアの視点では施設を家庭の延長として捉え、自宅での生活が連続したものとなるよう支援する事を目的としています。キッチンでごはんを炊いてみんなで食べ、ヒノキのお風呂にゆっくり入り、自分の部屋で安心して眠るという当たり前の生活が実現できるように、年間を通して研修を行い、段階的にステップアップしていけるように頑張っていきたいと思っております。



右写真:介護力向上委員会、介護事故・拘束・虐待防止委員会の合同研修の様子



「よい思い出となりました！」穴山の杜の夏祭り

亀フロア・鶴フロア毎に“プチ夏祭り”を開催しました。焼きそばや焼き鳥・かき氷など屋台定番メニューを食べ、お祭り気分を味わいました。盆踊りのBGMに「昔、よくお祭りで踊ったよね」と隣席の方と音楽に合わせて踊る様子も見られました♪

鶴フロアでは、食後にみんなで花火をし、「私も花火を持ちたい！」
「もう消えちゃった〜」と賑やかな声と笑顔が見られました。



新型コロナウイルスの影響により、毎年恒例となっている法人全体での夏祭りが中止となり、家族や利用者の皆様にとっても残念な事でしたが、お祭りの雰囲気や楽しさを提供したいと、ユニット職員が企画し開催しました。普段見られない表情やお話しなども聞く事も出来、有意義な時間を過ごす事が出来ました。

わ〜く 穴山の里

多機能型事業所 わ〜く穴山の里
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
Tel : 0551-25-5866
E-mail : work@sip-shinwakai.jp



工賃向上への取り組み

コロナの影響が未だ大きい中ではありますが、今年度の受注生産において、取引先の皆様には例年以上のご協力をいただき大変感謝しております。利用者の皆様も期待にこたえようと、真剣に取り組む毎日です。



自立支援協議会韮崎通所グループと韮崎市産業観光課との農福連携事業を進めています。マルス穂坂ワイナリー様では、ブドウの収穫用コンテナの洗浄作業をさせていただきました。



日々の様子から

某有名お菓子メーカーの箱折り作業は、1日に5,000箱以上おる時もあります。商品を入れる化粧箱の組み立ても数百箱！！頑張っています。



子供たちのために・・・

学校机用パーテーションの組立仕事をしています。誰かの役に立つ素晴らしいお仕事をいただきました。使っている姿を思い浮かべると、作業にも力が入ります！！



共同生活事業所

共同生活事業所 (わ〜く穴山の里内)
〒407-0263 韮崎市穴山町 4433-1
Tel : 0551-25-5866



コロナで、いろいろな行事が中止になりましたが、利用者の皆さんとコロナ対策を取りながら、余暇活動を充実させていきました。



ヨーヨー釣り・黒ひげゲーム・綿あめ・くじ引き等、利用者の皆様で楽しみました。

スリッパ入れづくり



折り紙が得意な利用者の方が率先して行いました。

市内の旅館の若女将からのご依頼で新聞紙でスリッパ用エコバックを作りました。有意義な時間になっています。

栗ひろい

地域の方のご厚意で栗拾いをさせていただきました。ソーシャルディスタンスを保ち、野外の活動でリフレッシュ!! その後は、おいしい栗ご飯になりました。



穴山の杜シヨート

穴山の杜 短期入所生活介護事業所
〒407-0263 韮崎市穴山町 4410-3
TEL : 0551-25-0800



敬老の日を迎えて・・・

毎年この日になると昼食のメニューは祝いご膳となり、同一法人の障がい施設利用者の方から慰問を受け、『元気で長生きしてください』とご家族以外の周囲からお祝いをうけます。

そもそも敬老の日はどうに始まったのでしょうか？兵庫県多可郡野間屋谷村で、1975年9月15日に村主催の敬老会を開催したのが始まりとされ、「老人を大切にし、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」という当時の村長の趣旨で開いたものが発祥のようです。当時は敬老の日ではなく、「としよりのひ」と呼んでいたようです。

利用者の皆様は全員職員よりももちろん年上です。日々利用者の皆様から教えられることがたくさんあります。現在は男女関係なく洗濯や掃除をしますが、そんな場面を見て「そんなこと男にやらせてはダメ！」、都度やっていた際にはお礼は言っているのですが、耳が遠くて聞こえず「今の若いもんはお礼の一つも言えん」と言われることがあります。職員の方がやり込められてしまうような場面も多々あります。時には「年寄り黙って若いもの言うことを聞いていけば争いにならん」と、悟りを聞いてくれたりもします。

現在のように世の中が便利でない時代に苦勞し、さまざまな困難にぶつかりながら行き抜いて来た利用者の皆様は、根本的に生きる力が私達とは全く違うように思います。核家族となり、家族数も少なくなり、家族や地域においてお年寄りと接する機会は少しずつ減りつつあるように思います。今の時代にそぐわない考えもありますが、教えを請うべきこと、話を聴いてなるほどと頷くことはあります。

仕事を通じて多くのお年寄りから学ぶことができること、生きる力を目の当たりにできること、とても有難いことだと感じています。是非学んだことは後世に伝えていければと思います。



おやつレク



暑い日が続いた7月にチョコレートパフェ、8月に地元の野菜を使ったチーズたっぷりのピザ、9月に懐かしい薄焼き風クレープを作りました。食欲の落ちる時期でも甘いおやつは格別で、あつという間に平らげてしまいました。ピザは生地から本格的に手作りし、一日掛かりで完成させました。毎月有意義な楽しい時間です♪



余暇活動



リハビリの一環として手先を使ったり、工夫を凝らしながら作品作りをしています。今回は風鈴、どんぐりキーホルダー、貼り絵などを製作し、四季の移ろいを感じています。毎回完成した貼り絵を展示すると『上手に出来た!!』と拍手が沸き、作った小物は土産話として楽しみに持ち帰っています。



9月17日、18日に「わーく穴山の里」と「穴山の里なかよし会」の皆さんより、手作りの眼鏡ケースとマスクのプレゼントを頂きました。マスクには『いつまでも健康でいてください』『長生きしてください』などの手書きのメッセージが添えられてありました。眼鏡ケースは牛乳パックを再利用し、半紙を染めて作ったそうです。心のこもったプレゼント、大切に使っております。



敬老の日





敬老の日当日は、お茶の時間に職員から手作りのメッセージカードのプレゼントがありました。「いつまでもお元気で・・・」という気持ちが込められ、不老長寿などの意味をもつ“ふくろう”が描かれておりました。祝い続きに抹茶をいただきながら、『長生きをしんと・・・』と終始笑顔でした。



『地域生活支援拠点事業』への取組スタート

地域生活支援拠点とは下記の5機能を柱に構築されています。

対象	利用者（サービス利用者・未利用者）			事業所	
機能	①相談	②緊急の受入	③体験の機会・場	④専門的人材の確保・養成	⑤地域の体制づくり
内容	地域で安心して生活ができるよう、相談支援を実施する。 	地域で安心して生活ができるよう、緊急時の受入を実施する。	施設・病院からの地域移行や親元からの自立をする為、障害福祉サービスの利用体験や1人暮らしの体験の機会・場を提供する。	医療的ケアや強度行動障害など、特に専門的なケアが必要な障害児・者について支援ができる人材の養成を行う。	地域の様々なニーズに対応できるサービス提供体制の確保や地域資源の連携体制の構築を行う。 
対応する事業所	相談支援事業所（特定）	短期入所	指定一般（地域移行支援） 日中活動：就労移行・就労継続支援・生活介護・自立訓練	生活介護	相談支援事業所（特定）

「さくら」が所属する『峡北地域障がい者自立支援協議会』には「地域生活支援拠点検討チーム」があります。これは数年前から発足しているワーキンググループをそのまま継続した発展型にあたるものですが、「障がい者の重度化・高齢化や親亡き後を見据えて居住支援のための機能をもつ場所や体制」の設置に向けて検討を重ねていくチームです。

韮崎市で作成した拠点の全体像から見て、「さくら」で出来ることを法人内で話合った結果、「①相談」と「⑤地域の体制づくり」の導入に向けて動き出すこととなりました。事業所で関わる利用者の中には「高齢化・生活環境の変化・障がいの重度化」と、様々な場面に直面している方が多くいらっしゃいます。

そのような方々の一助となるように「さくら」では現在、準備を整えています。

感謝録

(令和2年6月16日から令和2年9月15日)

～ご寄付を頂きました～ (敬称略)

ありがとうございました。感謝いたします。

五十嵐みさ・古内保明・濱 啓・細田清子・吉沢 明・
深沢淑子・花形令子・佐伯久美子・石合栄之・細田設備・
千野公洋・(有)パイプドクター・富士工器株式会社・
株式会社クラウンパッケージ

～ご協力を頂きました～ (敬称略)

☆ボランティア

永井萬喜子(太極拳)・田中康子(絵画)・飯野祐子(習字)



訪問録

(令和2年6月16日から令和2年9月15日)

☆教育実習 (敬称略)

◎山梨学院短期大学

三井朝実・道村彩花・丸茂琴乃・守屋瑠夏

◎帝京学園短期大学

前島かなえ・矢崎恵里佳

編集後記

カメラを構えるとフレーム越しにはいつも季節を感じます。彩り鮮やかな花々が大地に根を下ろし、訪れる冬に向けて準備を進めています。

各事業所ではコロナ禍の中、工夫を凝らしながら利用者の皆様が楽しい生活が送れるよう、支援・介護やレクリエーションに取り組んでいます。

(I・Y)